

光陰矢のごとし。

日本行きの飛行機を乗ってから、半年過ぎました。日本の生活にすっかり慣れた今の私は、この速さに驚きました。高校を卒業したばかりの私は、日本への留学に心配と不安でいっぱいでした。しかし、私は「自分の人生、自分の足で歩む」ということを信念として、両親の期待と友達祝福を背負って日本にやってきました。飛行機から降りた瞬間、家から離れ、祖国を離れたという実感が湧いてきました。

4月の日本は、桜が満開の季節です。空中に舞い散る桜の花びらと温かい春の風に触れ、心から暖かくなりました。澄んでいる川、みどりの木、青い空、綺麗な空気、PM2.5の心配はありません。綺麗な道並み、突然飛んでくるビニール袋の心配はありません。あっちこっちにゴミは置いてありません。

日本のことを言うと、二つのことを私たちは学ぶべきだと思います。

一つ目、ゴミの分類。日本では、ゴミの分類はとても厳しいです。ゴミの収集は地域によって、定期的に行われています。可燃ゴミ、不可燃ゴミ、資源ゴミなど細かく分類されています。決められた時間と場所にゴミを捨てます。また、ゴミ袋の色も地域によって違います。日本へ来る前に、ゴミ分類のことを中国の先生から聞いたことがありますが、実際にやると容易なことではありません。うっかりして忘れたら、次回しか出せません。特にゴミは絶対ドアの外に出してはいけません。猫やカラスなど動物が荒らすことはあるので、大家さんや管理会社に注意されることもあります。町の衛生を守るためにはみんなの協力と努力が必要です。

二つ目、交通ルールを守ること。日本では、“人が最優先”という交通状況が徹底的に実施されています。道路に交通整理する警察がいない、違法の交通監視カメラも設置していませんが、人々は自然に交通ルールを守っています。

次に、日本人についての印象を述べたいと思います。半年間日本人と接し、日本人は友好的、謙遜的なイメージを強く感じました。知っている人、知らない人でもいつも笑顔で接してくれます。日本の留学生活は、日本語の勉強だけではなく、毎日の生活においても勉強になることを分かりました。人との接し方、日本式の礼儀・作法、正しい人間になるための筋道など。

6月に、日本の伝統文化を学ぶために、大学の教職員と一緒に三重県の伊勢神宮へ見学に行きました。1300年の歴史を有する伊勢神宮、今年20年一回の遷宮の年となります。賑わう伊勢神宮の参道には大勢の外国人参拝者がいました。伊勢神宮は深い森の中に建てられ、厳かに神秘的でした。手を清め、参拝した私たちは、留学生生活の中でも特別な一日となりました。

日本は経済成長期に、伝統文化を守りながら世界からたくさんの異文化を取り入れました。独特な雰囲気に包まれている美しい国、私は益々好きになりました。もっと知りたいことがいっぱいあります。これからの留学生生活はもっと素晴らしいものになると信じています。